

## 一連の J R 九州ユニオン本部の対応と

### 「中央執行委員会見解」(6月21日付) に対する J R 東海労の見解

J R 総連は、6月4日～5日第22回定期大会を開催し「反弹圧・総団結」方針のいっそうの強化を満場一致で確認した。その後直ちに大会確認にもとづいて、J R 九州ユニオン本部に対して「J R 総連事務連絡第1号」を發し、①「J R 九州ユニオン發第10号」を撤回するのか検討結果を報告すること②問題解決のために J R 九州ユニオン全組合員との議論を具体化するための話し合いに応じること、の2点について6月16日までに報告することを要請した。しかし J R 九州ユニオン本部の回答は、「發10号」に至る経緯への理解と「京力副委員長発言」が撤回されないことを理由に「發10号」は撤回しないというものであった。

J R 総連第22回定期大会では、多くの代議員から J R 九州ユニオンに対し、『發10号』は撤回すべき、撤回しないで大会参加は矛盾している』との意見が相次いだ。これに対し J R 九州ユニオン谷川代議員(本部書記長)は、3回も発言に立ち「發10号の撤回については持ち帰って検討し回答する」と応えたのである。さらに、統制委員会の委員長見解としての継続審議や、「問題解決のために九州ユニオン全組合員との議論を J R 総連を含めて進める」という書記長総括答弁を、J R 九州ユニオン選出代議員を含めて全代議員の賛成で確認しているのである。

にもかかわらず、J R 九州ユニオン本部は「發10号は撤回できない」「私たちの主張が一切認められていない中で、J R 総連との議論を受け入れることはできない」(J R 九州ユニオン發第19、21号)と主張し、議論を拒絶しているのである。

そればかりではない。J R 九州ユニオン本部の一連の行為に対して、あらためて「發10号」の撤回と議論に応じるよう求めた J R 総連執行委員会の見解(J R 総連通信No.821)に対して J R 九州ユニオン本部は、中央執行委員会名による「見解」を J R 九州ユニオン組合員に發していることが明らかになった。その「見解」では、「J R 総連第22回定期大会は民主的な運営がされず少数派の意見は圧殺するという大会運営がされていた」との主張である。

ふざけるのもいい加減にしなければならない! 事実をねじ曲げ、組合員へ真実を伝えようとしない J R 九州ユニオン本部こそ糾弾されるべきである。全ての代議員・傍聴者から何度も発言を促され、議長の取り計らいで3回も発言の機会を得たのは谷川代議員ではないか。全ての議案について、J R 九州ユニオン選出代議員も拍手で賛成したではないか。「発言を圧殺する」「圧倒的多数の声に押しつぶされた」という主張は事実の捏造以外のなにものでもない。

J R 東海労は、このような J R 九州ユニオン本部の態度を放置し、黙認することはできない。全国の仲間とともに「反弹圧・総団結」方針の一層の強化をかちとるためにたたかうことを明らかにする。

2006年6月30日

ジェイアール東海労働組合(J R 東海労)